

漁海況年報

平成30年1月1日～12月31日

【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に近年の流型の経過を示した。また、図2には平成30年1～12月における月前・後半の代表的な黒潮流路を示した。

平成30年の黒潮流路は、前年9月後半以降のA型基調が継続し、期間を通じてA型で推移した。すなわち、概ね各月を通じ、潮岬沖32°N付近から、136°～140°E・32°N以南の蛇行南端部に向かい、その後、概ね伊豆諸島周辺の139°～140°E付近を北上した。

また、期間を通じ、三宅島周辺の黒潮北流部から遠州灘～熊野灘に向かって、断続的に暖水が波及した。また、2～3月、5月、6月、12月には黒潮内側反流の形成が見られた。

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)

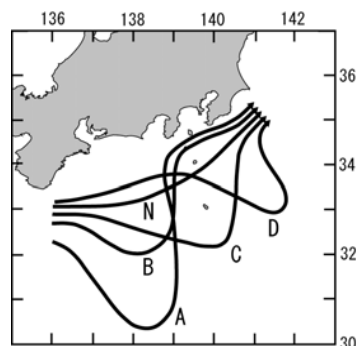
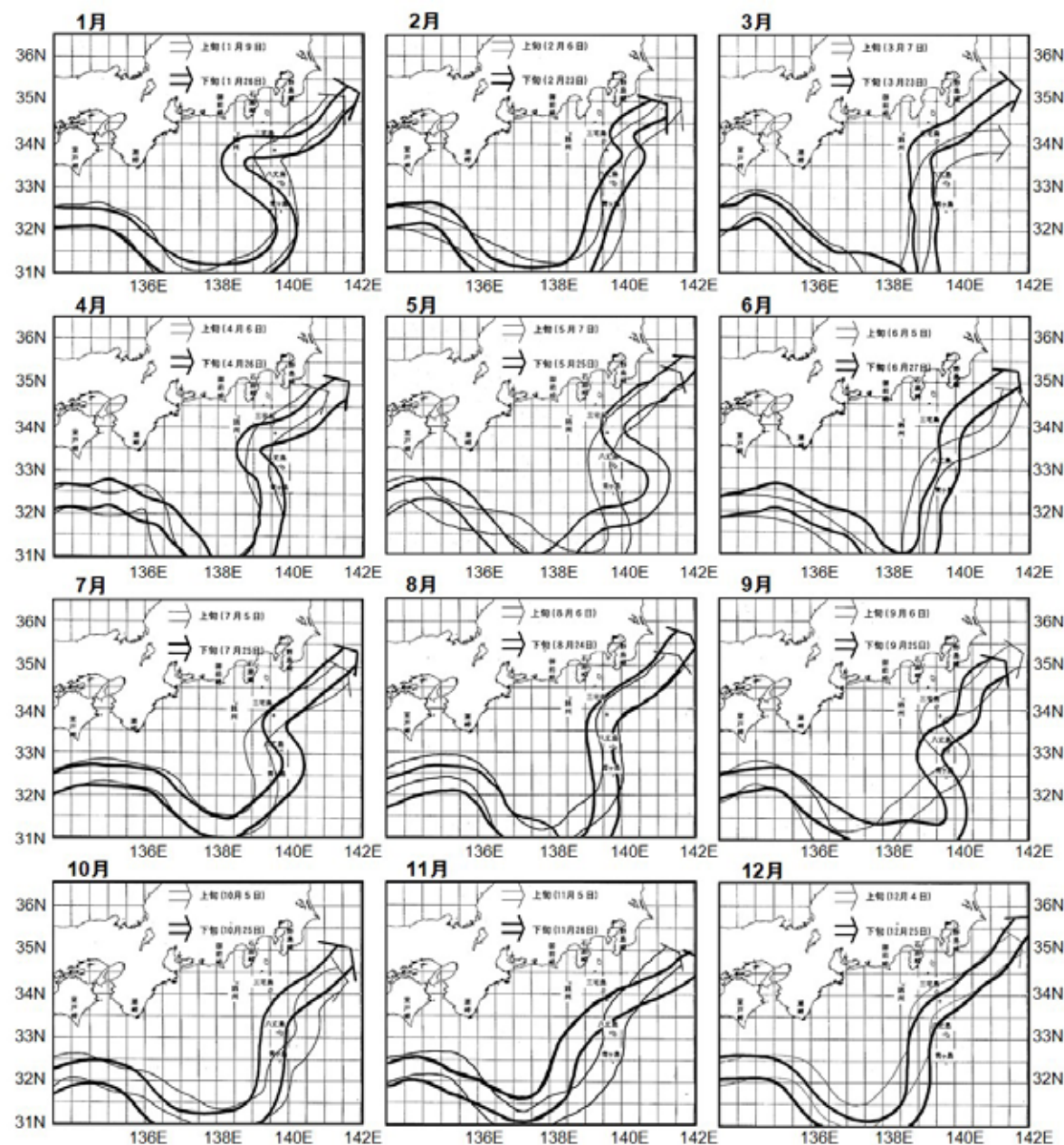


図1 黒潮流型の区分
(海上保安庁海洋情報部より)

表1 黒潮流型一覧表 資料：海洋速報(海上保安庁) 関東・東海海況速報)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																
15年	N	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N				
16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	NA	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A			
17年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	C	C	C	D	DN	N	N	N	N	N			
18年	N	N	N	NB	C	CWC	CN	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BN	C	NC	C	D	DN	N	N		
19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	C	N	N	B	C	C	C	C	C	W	N	C	C	C	C	D		
20年	C	C	N	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C	C	CD	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C		
21年	C	C	C	C	C	C	CW	WB	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	CW	WC	C	C	CN	NB	BN	BC	C	C
22年	D	DN	N	BC	N	NW	WB	C	OD	D	N	N	NB	B	BN	N	N	N	N	N	N	N	N	BC	N	BC	CN	
23年	N	N	N	B	B	CW	C	DW	N	BC	C	D	N	NB	NB	BN	N	B	C	DN	N	N	N	N	N	N		
24年	N	N	N	B	C	C	OD	N	B	C	C	D	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BC	C	C	
25年	C	ND	D	DN	N	N	N	NB	B	BC	C	C	C	W	W	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
26年	C	C	C	C	C	WB	C	BC	N	N	BC	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	
27年	N	BC	C	W	WB	C	C	C	C	OD	DC	D	N	NDW	W	WC	C	C	C	C	C	C	C	N	N	NB	BC	
28年	C	D	BN	DW	NB	NB	BC	C	C	C	C	C	C	C	CW	BN	N	B	BC	C	CWB	CW	WC	CW	WC	CW	CB	
29年	B	BC	C	CW	B	C	C	C	OD	DW	W	B	C	C	C	W	W	A	A	A	AC	CA	A	A	A	A	A	
30年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	

*静岡県水産技術研究所一部改変



⇨前半 ⇨後半

図2 黒潮流軸の変動(関東・東海海況速報より)

[県下沿岸域]

図3に平成30年1～12月の旬別の沿岸水温を示した。

平成30年の県下沿岸水温は、伊豆東岸（伊東・稲取・下田）駿河湾（雲見・沼津・焼津）とも高め傾向で経過した。伊豆東岸では、3月と、5月以降に断続的に「高め」～「かなり高め」、駿河湾では、3月、7～8月、11～12月に「高め」～「かなり高め」であった。

月ごとの測点別の沿岸水温は次のとおりであった。

1月は伊東、下田「やや低め」～「平年並」、稲取、雲見「平年並」、沼津、焼津「低め」～「やや低め」であった。

2月は伊東「やや低め」、下田「やや低め」～「平年並」、焼津「平年並」、稲取、雲見、沼津「平年並」～「やや高め」であった。

3月は伊東「平年並」～「やや高め」、稲取、下田「平年並」～「高め」、沼津「やや低め」～「やや高め」、雲見、焼津「平年並」～「かなり高め」であった。

4月は伊東、稲取、下田「平年並」～「やや高め」、雲見「平年並」～「高め」、沼津「やや高め」、焼津「やや高め」～「高め」であった。

5月は伊東、沼津、焼津「平年並」～「やや高め」、雲見「やや高め」、稲取、下田「平年並」～「高め」であった。

6月は伊東、稲取、下田「平年並」～「高め」、雲見「やや高め」、沼津、焼津「平年並」～「やや高め」であった。

7月は伊東「平年並」～「高め」、稲取「やや低め」～「かなり高め」、下田「平年並」～「かなり高め」、焼津「やや高め」～「かなり高め」、雲見、沼津「高め」～「かなり高め」であった。

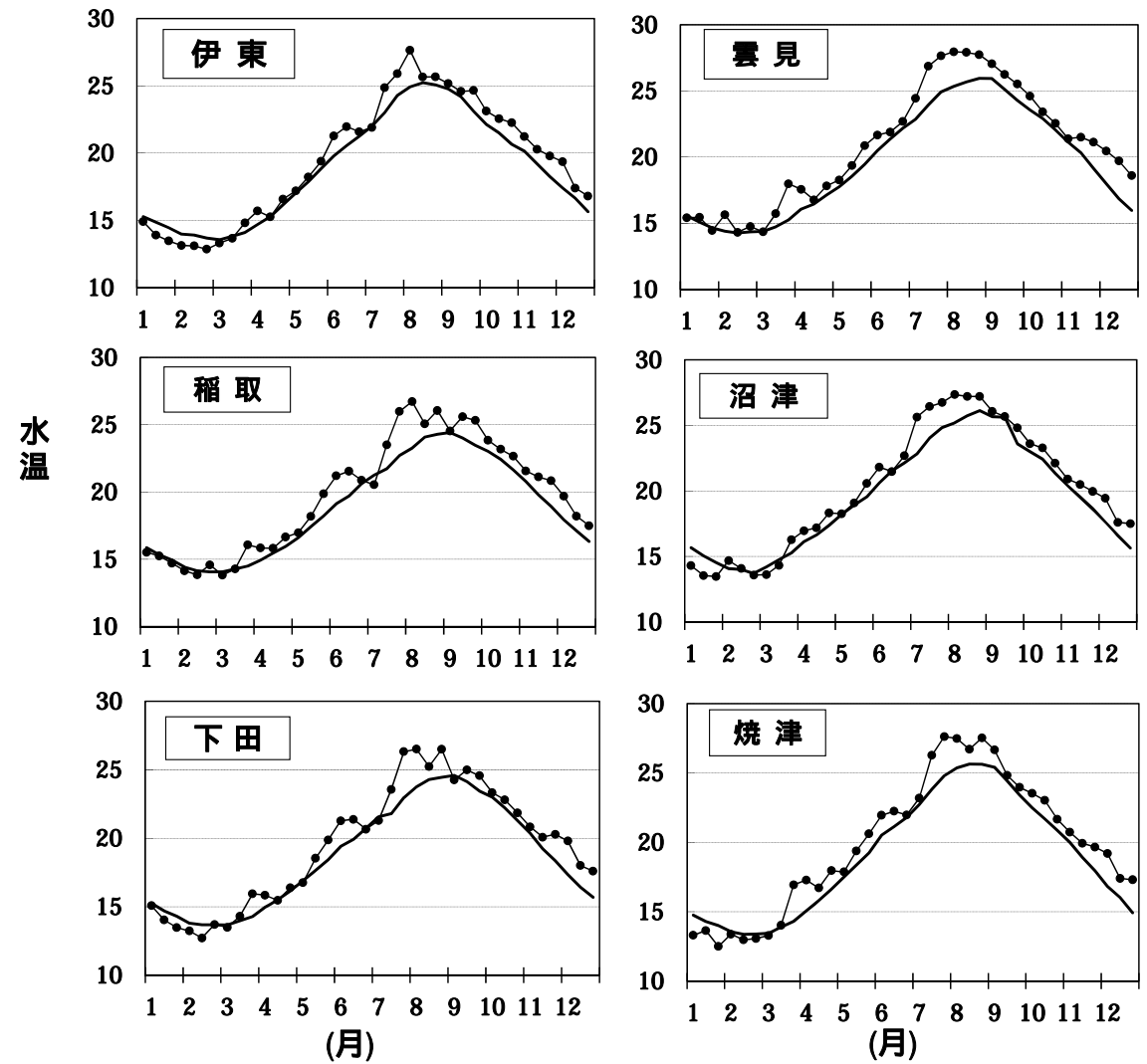
8月は伊東「平年並」～「かなり高め」、沼津、焼津「やや高め」～「高め」、稲取、下田、雲見「高め」～「かなり高め」であった。

9月は伊東、稲取「平年並」～「高め」、下田、沼津、焼津「平年並」～「やや高め」、雲見「やや高め」であった。

10月は伊東「やや高め」～「高め」、下田「平年並」～「やや高め」、稲取、雲見、沼津、焼津「やや高め」であった。

11月は伊東、稲取、下田、焼津「やや高め」～「高め」、雲見「平年並」～「高め」、沼津「やや高め」であった。

12月は伊東、稲取「やや高め」～「高め」、沼津、焼津「やや高め」～「高め」、雲見「かなり高め」であった。



*地頭方の水温観測は平成28年3月で終了しました。

—— 月旬平均水温 ●●●● 平年水温

図3 平成30年1～12月の旬別沿岸水温の変化（縦軸は水温、横軸は月を示す）

[サバたもすくい棒受網]

1 たもすくい(平成30年1~6月)

静岡県船のたもすくいの操業は、1月下旬に始まり、漁場は三宅島周辺海域の三本に形成された。2月中旬まで黒潮が三宅島周辺海域を通過したため、漁場水温は18 前後で推移し、主漁場となった。2月下旬になると黒潮は三宅島以南を流れ、黒潮からの暖水波及も弱かったことから全体的に水温が下がり、漁況は低調となった。3月中旬には、水温18 前後の銭洲海域に漁場が形成されたが、4月上旬になると銭洲海域、三宅島周辺海域の水温は19~20 以上となり、マサバ主体の操業は徐々に低調となり、4月中旬以降静岡県船は棒受網に転換した(たもすくい出漁日数27日)。

静岡県船のマサバCPUE(1夜1隻)は15.0トンで前年10.4トン大きく上回った。平成30年1~6月の一都三県主要7港¹への水揚量は、マサバが2,874トンで前年(1,643トン)を上回り、ゴマサバが1,216トンで前年(321トン)を上回った。

1 千葉県：千倉・富浦、神奈川県：三崎・長井、静岡県：伊東・沼津・小川の7港。

2 棒受網(平成30年1~12月)

棒受網による操業は1月中旬にゴマサバ主体の操業で始まり、漁場は三宅島周辺海域の三本に形成された。漁獲物に占めるマサバの割合は51%と、この時期としては非常に高い値であり、1月下旬には全船がたもすくい操業に転向した。マサバ漁況が低調となった4月中旬に棒受網による操業を再開したが、伊豆諸島周辺海域における黒潮の流路は安定せず、漁場は三宅や三本、銭洲、高瀬、ひょうたん瀬等に散発的な形成にとどまり、漁況は低調に推移した。9月下旬以降、黒潮が伊豆諸島海域の東を北上する流路となると、徐々に漁況は上向きとなり、10月は好漁であった。11月上旬も漁況は好調に推移していたが、11月中旬以降、再び黒潮が三宅島周辺海域を通過するようになると、漁況も低調となり、12月中旬に今期の操業は終漁となった。

平成30年の静岡県主要4港²における水揚量は、マサバは238トンで前年(31.6トン)を上回り、ゴマサバは3,655トンで前年(5,291トン)を下回った。また、ゴマサバCPUE(1夜1隻)は15.6トンで、前年(20.5トン)前々年(20.5トン)を下回った。

ゴマサバの年齢別漁獲尾数の割合は、0歳魚(2018年級群)が6.9%、1歳魚(2017年級群)が40.9%、2歳魚(2016年級群)が43.2%、3歳魚(2015年級群)が7.2%、4歳(2014年級群)以上が1.8%であり、1、2歳魚が漁獲の主体となった。

2 伊東・静浦・沼津・小川の4港。

3 小川魚市場におけるさば類単価(表2)

平成30年の小川魚市場における棒受網(一部たもすくいも含む)のさば類月別単価は、マサバが99~227円/kg(1~6月)、ゴマサバが93~136円/kgであった。マサバについて近年水揚量は増加傾向にあるが、30cm未満の小型魚の割合が多く、価格は低調に推移している。ゴマサバについて、水揚量の減少に伴い、価格は高値で推移している。

表2 小川港(焼津市)における棒受網・たもすくいのさば類月別単価

単位：円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014年	マサバ	193	301	229	215	187	165	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	101	170	110	105	92	85	91	91	94	73	83	116
2015年	マサバ	409	295	119	106	83	108						
	ゴマサバ	120	198	111	88	78	88	87	169	109	106	94	83
2016年	マサバ	203	134	142	105	228	-	324	-	-	-	-	183
	ゴマサバ	92	114	119	101	98	92	87	82	82	84	92	93
2017年	マサバ	279	145	158	108	72	204	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	111	113	117	90	91	93	79	92	79	85	89	135
2018年	マサバ	137	109	107	122	90	227						
	ゴマサバ	121	136	110	103	98	93	93	98	109	121	102	106

[サクラエビ船曳網]

春漁は、4月10日夜~6月3日夜に操業が行われた。出漁日数は19日、漁獲量は312トンで、主な漁場は富士市沖から富士川沖、及び相良沖に形成された(前年の出漁日数は25日、漁獲量は811トン)。漁獲されたサクラエビは、ほとんどが0歳エビで平均体長は36.3mmであった(図4)。

秋漁は、春漁が低迷したことを考慮した自主規制として、県桜えび漁業組合による「平成30年度秋漁の操業に関する取り決め事項」が策定された。これは、次の年の春漁期以降に産卵する0歳エビの保護を目的としたものであり、取り決め事項には「投網前には必ず試験網を使用し、試験網で採捕したエビのうち0歳エビ(体長35mm以下)の尾数が全採捕尾数の3分の1以上であった場合は、その群れに対しては投網しない」という項目があった。漁期中に行った4回の試験網調査では漁獲対象となる群れが見つからなかったことから一度も投網することなく秋漁を終漁した。

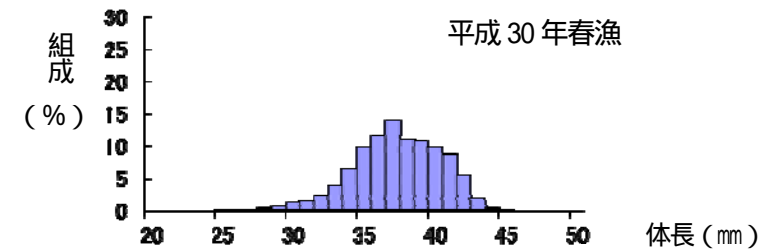


図4 平成30年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

[竿釣り近海カツオ]

1 水揚量と魚価

平成30年の静岡県主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は1,108トンで、前年の888トンを上回り、過去5か年平均(1,183トン)の94%であった(表3、図5)。

魚価は334円/kgで前年(404円/kg)及び過去5か年平均(394円/kg)を下回った(表3、図6)。

2 漁況(漁場形成と魚体)

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した(表3)。

- 1月 近海竿釣り船の水揚げが始まり、中南方海域(22° ~23° N、151° ~152° E)で操業し、大(尾叉長58cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 2月 近海竿釣り船が中南方海域(緯度経度不明)で操業し、大(尾叉長モード不明)カツオを主体に水揚げした他、伊豆諸島周辺海域(30° ~31° N、138° ~139° E)で操業し、チン(尾叉長36cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 3月 近海竿釣り船が中南方海域(緯度経度不明)で操業し、大(尾叉長モード不明)カツオを主体に水揚げした。また、沿岸竿釣り船による水揚げが始まり、伊豆諸島周辺海域(33° ~34° N、138° ~139° E)で操業し、小(尾叉長44cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 4月 近海・沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33° ~34° N、138° ~139° E)や駿河湾沖(34° ~35° N、138° ~139° E)で操業し、小(尾叉長44cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 5月 近海・沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33° ~34° N、138° ~140° E)で操業し、小(尾叉長46cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 6月 近海竿釣り船の主漁場が常磐・三陸沖へと変わり御前崎港への水揚げはなかった。沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33° ~34° N、139° ~140° E)や駿河湾沖(34° ~35° N、138° ~139° E)で操業し、小(尾叉長47cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 7月 近海・沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33° ~34° N、139° ~140° E)や駿河湾沖(34° ~35° N、138° ~139° E)で操業し、小(尾叉長44cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 8月 沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31° ~32° N、139° ~140° E)で操業し、小(尾叉長45cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 9月 沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(31° ~35° N、138° ~140° E)や駿河湾沖(34° ~35° N、138° ~139° E)、遠州灘沖(34° ~35° N、137° ~138° E)で操業し、大(尾叉長58cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 10月 沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(34° ~35° N、139° ~140° E)で操業し、極小(尾叉長42cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 11月 三陸沖漁場から帰ってきた近海竿釣り船と沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(34° ~35° N、139° ~140° E)で操業し、チン(尾叉長36cmモード)カツオを主体に今漁期最後の水揚げをした。
- 12月 -

表3 平成30年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等(県内主要5港)

年月	水揚量(トン)	水揚隻数	水揚/隻(トン)	平均単価(円/kg)	主漁場と魚体 ()内は尾叉長モード、単位はcm
30年1月	28	2	14.1	377	中南方海域(58)
2月	59	4	14.7	279	中南方海域(不明)、伊豆諸島周辺海域(36)
3月	26	6	4.3	347	中南方海域(不明)伊豆諸島周辺海域(44)
4月	308	57	5.4	383	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖(44)
5月	176	43	4.1	371	伊豆諸島周辺海域(46)
6月	113	36	3.1	420	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖(47)
7月	154	50	3.1	248	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖(44)
8月	103	29	3.6	193	伊豆諸島周辺海域(45)
9月	67	34	2.0	302	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖、遠州灘沖(58)
10月	58	29	2.0	348	伊豆諸島周辺海域(42)
11月	17	16	1.1	303	伊豆諸島周辺海域(36)
12月	-	-	-	-	
30年計	1,108	306	3.6	334	
29年計	888	277	3.2	404	
5か年平均	1,183	315	4.2	394	平成25~29年の平均

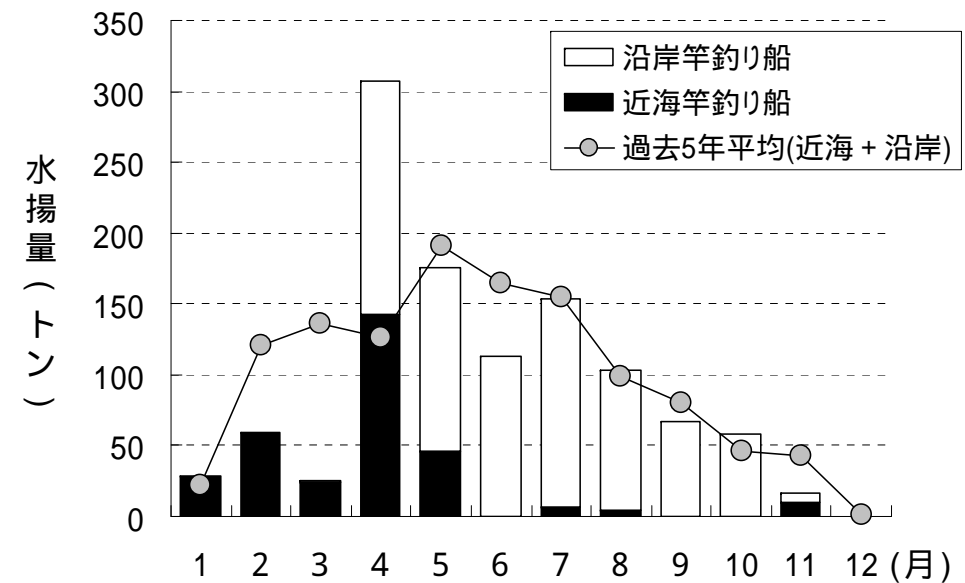


図5 近海・沿岸竿釣りカツオの月別水揚量の推移

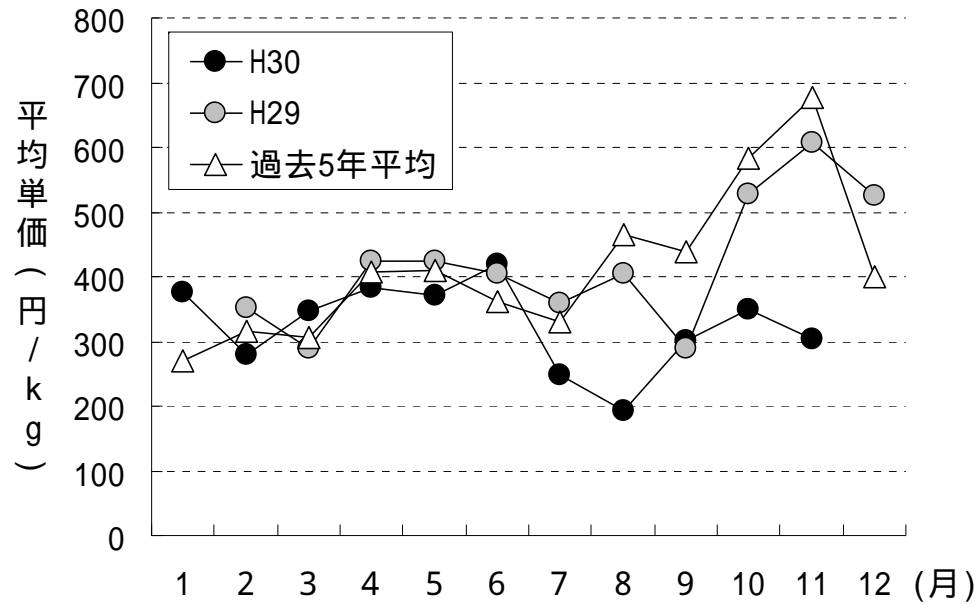


図6 近海・沿岸竿釣りカツオの平均単価の推移

[まき網(いわし類)]

1 マイワシ

平成30年における静岡漁港の総水揚量は0.2トンであった(前年0.5トン、平年*0.6トン)。沼津港の総水揚量は、3,467.4トンで、前年(6,187.2トン)の56%、平年(3,043.0トン)の1.1倍であった。最も水揚量が多かったのは8月で812.7トンであった。
 小川漁港の総水揚量は、1,679.5トンで、前年(2,621.1トン)の64.1%、平年(1,280.2トン)の1.3倍であった。最も水揚量が多かったのは2月で517.9トンであった。
 伊東港の総水揚量は、1,338.1トンで、前年(722.1トン)の1.9倍、平年(506.0トン)の2.6倍であった。最も水揚量が多かったのは8月で243.0トンであった。

2 カタクチイワシ

平成30年における静岡漁港の水揚げはなかった(前年水揚なし、平年3.3トン)。沼津港の総水揚量は21.6トンで、前年(367.7トン)の5.9%、平年(123.1トン)の17.6%であった。最も水揚量が多かったのは5月で15.3トンであった。
 伊東港の総水揚量は31.1トンで、前年(13.2トン)の2.4倍、平年(371.4トン)の8.4%であった。水揚げがあったのは3月のみであった。

*平年：過去5カ年(平成25~29年)平均

[シラス船曳網]

操業は3月23日から始まり、平成30年漁期の主要6港(用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は5,306トンで、前年(4,557トン)の1.2倍、平年*(6,973トン)の76%であった。また、総水揚金額は5,272,491千円で、前年(2,893,036千円)の1.8倍、平年(3,880,020千円)の1.4倍であった。平均単価は994円/kgで、これは前年(635円/kg)の1.6倍、平年(556円/kg)の1.8倍であった。

各月の水揚量は、3月は490トン、4月は1,473トンと増加し、今漁期の最大となった。その後、5月は1,280トン、6月は213トンと減少したが、7月は301トン、8月は317トン、9月は427トンと再び増加した。10月は324トン、11月は363トン、12月は95トン、1月は22トンと増減して推移した。前年及び平年と比較すると、漁期はじめである3、4月の水揚量は、前年と平年を上回り好調であった(3月：前年比5.5倍 平年比3.9倍、4月：前年比1.7倍 平年比1.2倍)。7~8月の水揚量は、平成25年以降が少ない傾向が続いており、今漁期も低調に推移した。9月以降の水揚量は、昨年と同様に明瞭なピークはみられなかったものの、前年を上回って推移した(前年比1.2~9.8倍)(図7)。

シラスの魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かったのは、5月(1,086トン)であった。マイワシのシラスは3~5月と12~1月に漁獲され、最も水揚量が多かったのは4月(501トン)で、最も水揚割合が多かったのは3月(59%)であった。ウルメイワシのシラスは3~6月と11~1月に漁獲され、最も水揚量が多かったのは5月(163トン)で、最も水揚割合が多かったのは12月(21%)であった(図8)。マイワシのシラスの年間水揚割合は親のマイワシ資源の増加とともに近年増加傾向であり、今漁期については平年を上回ったものの、非常に多かった昨年を下回った(平年比1.1倍 前年比41%)(図9)。

*平年：過去5カ年(平成25~29年)平均

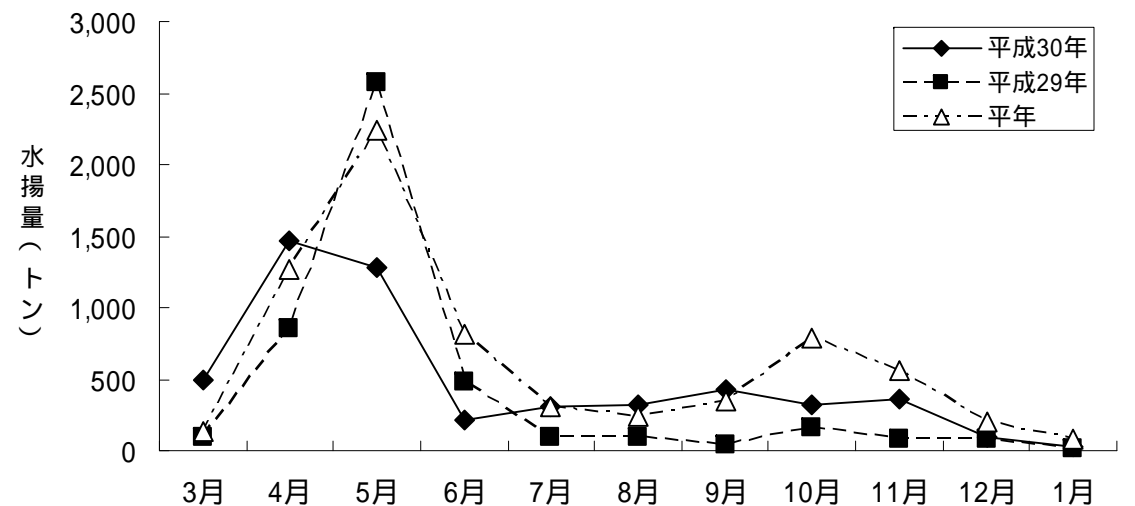


図7 平成30年漁期 主要6港 シラスの水揚量の推移

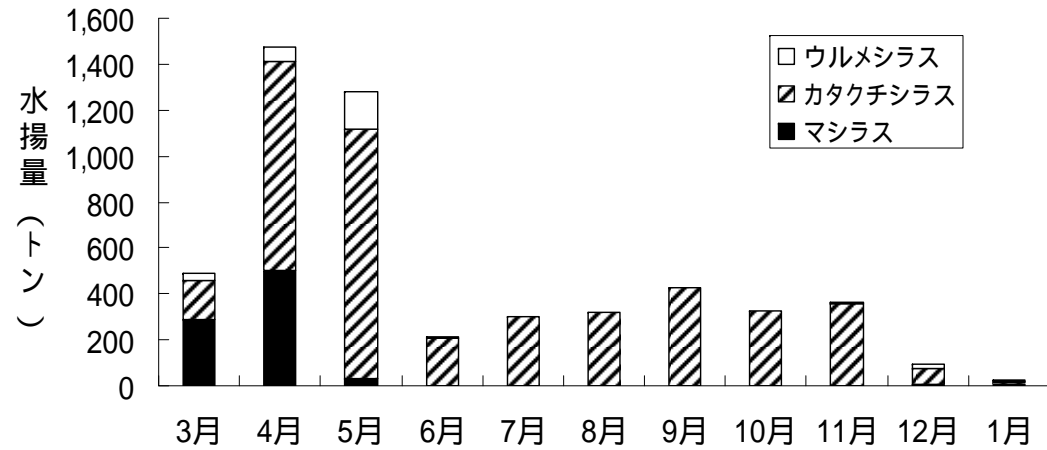


図8 平成30年漁期 主要6港 シラスの魚種別水揚量の推移

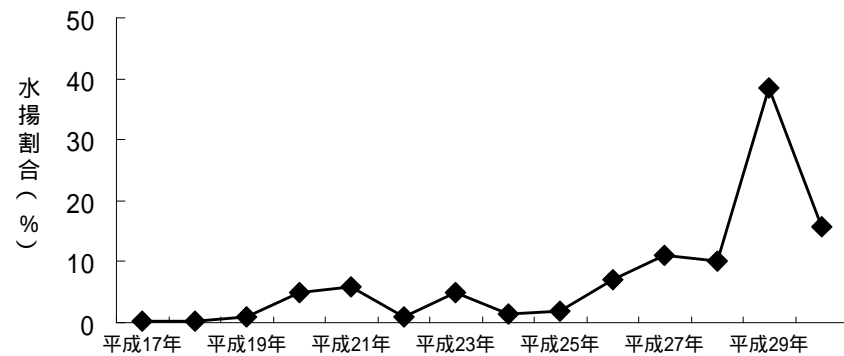


図9 マイワシのシラスの水揚割合の推移

[定置網]

平成30年の伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の漁獲量は3,023トンで、前年漁獲量2,860トンの1.1倍、平年値(昭和57年~平成29年平均)4,050トンの75%であった。月別漁獲量は4月と7月を除き平年を下回った(図10)。

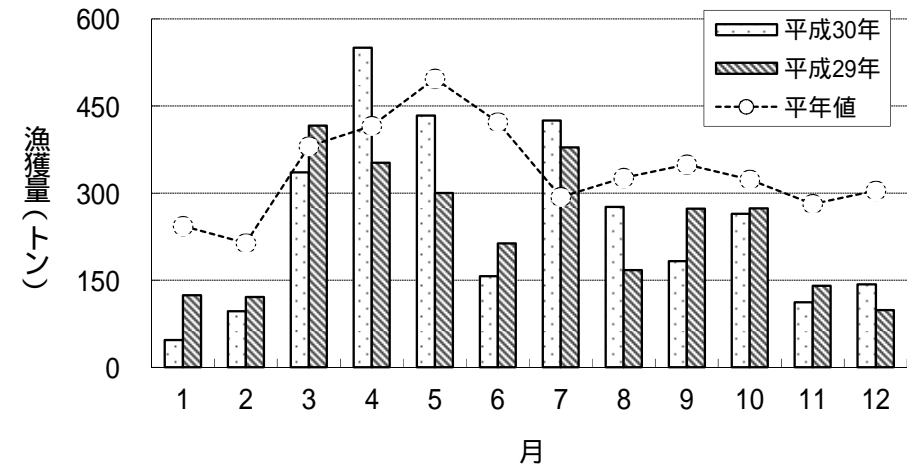


図10 月別漁獲量の推移

漁場別漁獲量は、伊豆山、富戸、赤沢、北川漁場が前年を上回り、古網、川奈、谷津漁場が前年を下回った。漁獲量の多かった漁場は、順に北川(さば類、ブリ、スルメイカ主体)、古網(マイワシ、さば類、カタクチイワシ主体)、伊豆山(さば類、マイワシ、カタクチイワシ主体)漁場であった(図11)。

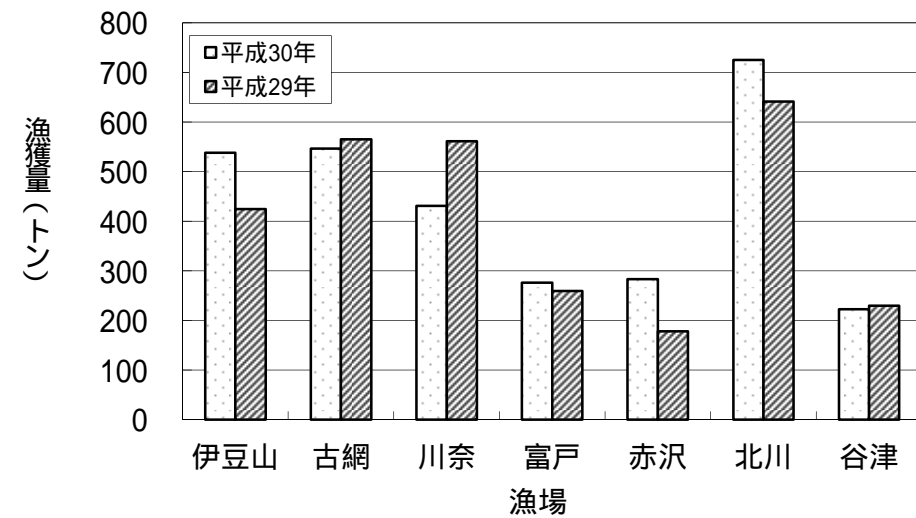


図11 漁場別漁獲量

多獲された魚種（上位10種）の漁獲量は表4のとおりで、さば類、マイワシ、マルソウダ、スルメイカ、シイラ、サンマは前年を上回り、ブリは前年並、カタクチイワシ、イサキ、ヤマトカマスは前年を下回った。

さば類は1,020トンで、前年比1.4倍、平年比1.0倍であった。さば類のうち、ゴマサバは608トンで、前年比96%、平年比65%であったが、マサバは412トンで、前年比5.1倍、平年比7.0倍と前年、平年を大きく上回った。

ブリは653トンで、前年比1.0倍、平年比2.5倍であった。銘柄ぶり、わらさ主体で、ぶりは299トンで前年比1.5倍、平年比2.9倍、わらさは151トンで前年比53%、平年比1.5倍と、いずれも平年を上回った。

マイワシは526トンで、前年比3.8倍、平年比1.6倍、魚体は小羽主体で中羽も混じった。下半期に漁獲量が多く、特に7月は208トン、前年比3.2倍、平年比5.8倍の漁獲があった。

カタクチイワシは151トンで、前年比36%、平年比38%であった。

マルソウダは117トンで、前年比1.8倍、平年比45%であった。例年、12月は漁獲量が少ないが、平成30年は47.6トン、前年比6.5倍、平年比6.1倍と特異的に多かった。

表4 多獲された魚種の漁獲量

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比
さば類	1,020	1.43	1.03
ブリ	653	1.04	2.46
マイワシ	526	3.81	1.55
カタクチイワシ	151	0.36	0.38
マルソウダ	117	1.79	0.45
スルメイカ	93	1.72	0.44
イサキ	78	0.71	1.37
シイラ	65	1.66	1.03
ヤマトカマス	54	0.34	0.70
サンマ	46	6.26	0.51

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

3月上旬からホームページのアドレスが変わります。



<http://fish-exp>の間にsが追加され、<https://fish-exp>と変わります。

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。